せいけん詩集

第十一篇

作：近藤せいけん

「水に文字を書く」

水に指を入れ
愛　あいと　文字を書く
波紋が広がり　消えてゆく
一瞬　一瞬
頭の中に　映像が浮かび
消えてゆく
たらいに　映る　悲しげな
顔
映った顔は　誰の顔

水に文字を書く
願い　願いと
波紋が広がり　消えてゆく
その瞬間
心の中で　つぶやく
明日が　いい日でありますように
たらいに　映る　穏やかな
顔
映った顔は　誰の顔

「雑草の詩」

陽春とともに　小路の両側から
芽を出す　名も無い雑草
世の人々が
さくら　さくらと
ウカレル中
ひっそりと　忘れられて
花を咲かす　雑草
今年も咲いたよ
春の訪れと共に

踏まれても　抜かれても
芽を出す　名も無い雑草
世の人々に
振り向かれず　賞賛されず
大地に根をおろす
その命　強し
ひっそりと　忘れられて
今年も咲いたよ
風に　冷たい雨に　強い日差しに
負けるなよ

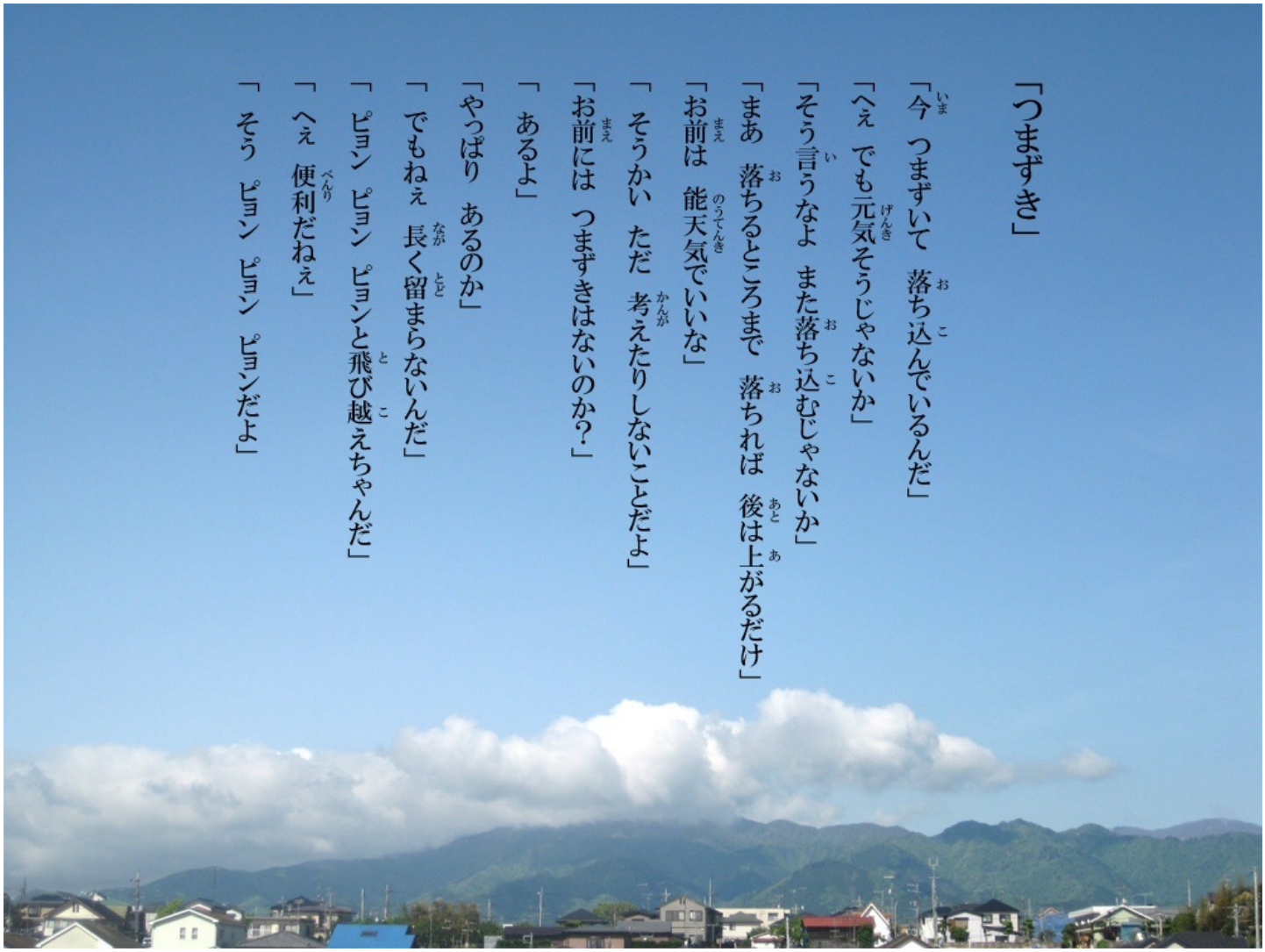
「幸せは何処にある」

幸せは　何処にある
すぐそこに
和める心　内側にある

「君は誰」「僕は幸せ」
「へぇ　いいね」
「でも　縁がない」
「そう　幸せって　いいよ」

「君は誰」「僕は幸せだよ」
「へぇ　やっときたね」
「でも　簡単だねぇ」
「そうだよ　シンプルなんだ」

「おい、早く来い」
「君は何を待っているの」
「決まっているじゃないか」
「幸せを呼んでいるんだ」



「つまずき」

「今　つまずいて　落ち込んでいるんだ」

「へぇ　でも元気そうじゃないか」

「そう言うなよ　また落ち込むじゃないか」

「まあ　落ちるところまで　落ちれば　後は上がるだけ」

「お前は　能天気でいいな」

「そうかい　ただ　考えたりしないことだよ」

「お前には　つまずきはないのか？」

「あるよ」

「やっぱり　あるのか」

「でもねぇ　長く留まらないんだ」

「ピョン　ピョン　ピョンと飛び越えちゃんだ」

「へぇ　便利だねぇ」

「そう　ピョン　ピョン　ピョンだよ」